

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう} 放送原稿（4月25日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。^{か ごしまけんりつあま} 鹿児島県立奄
^{み としよかん} 美図書館です。

今朝は、^{あまみとしよかん} 奄美図書館の新着図書について御案内します。

まずは、一般書の御案内です。

1冊めは、平成22年に『ほかならぬ人へ』で直木賞を受賞した^{しらいしかずふみ}白石一文さんの『彼が通る不思議なコースを私も』です。物語の主人公は、大学を出て大手家電メーカーに勤める^{きり こ}霧子。ある日、彼女は友人カップルの別れ話に巻き込まれ、別れを切り出された彼氏がビルの10階から飛び降りる、という修羅場に遭遇します。その緊迫した現場で、霧子は黒ずくめの背の高い不思議な男を見かけました。しかし男は霧子たちを助けもせず、気づいたらいなくなっていました。しばらくして、霧子は飲み会場でその男と再会します。彼の名前は^{つばきりん たろう}椿林太郎。初対面の印象とは違い、彼は学習障害児の指導に携わる優秀な小学校教師だったのです。彼自身、小学校時代に学習障害に悩んだ経験があり、「自分のような人間が教師になって同じような子どもたちを手助けしてあげたい。」という熱い思いを抱いていました。霧子はそんな彼にどんどん魅かれていくのです。しかし実は、彼には知られざる不思議な能力があって…。話の続きはどうぞ読んでみてください。

2冊めは、管理栄養士の^{いわさきけい こ}岩崎啓子さんと医学博士の^{いしかわ}石川みずえさん共著の『ちょっと具合のよくないときのごはん』です。「病気ではないけれど、なんだか調子が今ひとつぱっとしない」ということは誰にでもあると思います。風邪気味だったり、頭が重かったり、精神的な部分で気持ちがのらなかったり、状態は人それぞれですが、病院に行くまではないけれど睡眠不足や、不規則な生活などで「何だか調子が悪い」という場合です。そのような、具合の悪さ、状態に応じて、必要な食事を紹介しているのがこの本です。その他、体によい食材を取り合わせたアイデア料理も収録されています。特に、季節の変わり目は体調を崩しやすくなります。ぜひ、参考にしてみてください。

次は、児童書をご案内しましょう。

1冊めは、^{いわ せ じようこ}岩瀬成子さんの『あたらしい子がきて』です。今まで1歳違いの妹と二人姉妹だったところに、年の離れた弟が生まれました。お母さんは、里帰り出産で家にはいません。姉のみきは、お母さんが赤ちゃんばかりかわいがっているように見えて少し複雑な

心境です。「自分はお母さんに忘れられたかわいそうな子」のふりをします。弟が家に戻ってきても、みんなが赤ちゃんばかり構うのでおもしろくありません。しかし、いろいろな人や出来事と出会い、自分のことも大事にされていると気付きます。そして、やっぱり弟が生まれてきてくれて良かったという気持ちになります。ぜひ、親子で読んでみてください。

2冊めは、高木^{たかぎ}さんごさんの『じゃんけんでんしゃ』です。この絵本は、おにぎりをはじめ、色々な種類の食べ物が、じゃんけんをして勝った方が運転手、負けた方が車掌になってどんどん列車が繋がっていくお話です。まず、てんむすとやきおにぎりがじゃんけんをします。てんむすが、ぐーで勝ち、次の相手を見つけて出発します。ピラフちゃんにおせきはん、コロッケパンに肉まん、たこやき、カレーパンもいます。ついにはデザートプリンやイチゴ大福も登場します。どんどん繋がって運転手がどこにいるのか分からないぐらい長い列車になりました。最後に残ったのは一体誰でしょうか…。そして、列車が向かった先は…。読んでいて楽しくなる1冊です。どうぞ、ご覧ください。

最後は郷土に関する本のご案内です。

駒澤大学教授の須山^{す やまさとし} 聡さん編著の『奄美大島の地域性』です。この本は同大学地理学科地域文化研究専攻の学生が、フィールドワークとして平成14年から10年間をかけて行った奄美大島の地域的特徴の調査報告書を基に編集された地誌となっています。そして、地域性を的確に把握するために、「シマとナセ」、「島のすがた」、「ヤマトからの視線」の3つの観点から構成されています。豊富な写真や図が用いられ、奄美大島のことがよく分かる1冊です。

さて、もうすぐゴールデンウィークが始まります。奄美図書館では、「こどもの読書週間」にあわせて、5月11日まで一人につき、一般図書10冊、児童図書10冊、合計20冊まで借りることができます。ぜひ、この機会にゆっくり読書をお楽しみください。

それではまた来週、鹿児島県立奄美図書館でした。